

『ナガチャコガネ』の特徴と防除対策

ナガチャコガネの被害

- ① 一番茶の芽が出なかったり、生育が遅れる。
- ② 細根の量が減るので茶の生育が悪くなる。



一番茶の被害(静岡県の茶園)

ナガチャコガネとは

- ① 屋久島以北の日本各地に分布し、茶の他に花木や林木などで被害がみられる。
- ② 年1回の発生で3齢幼虫で越冬し、5月～6月頃に成虫になる。
- ③ 成虫の体長は11～14mmで、体色は赤茶色。生存期間は20日程度で、日没直後から地上に出て活動する。
- ④ 雄成虫は飛ぶことができるが、茶園で発生する雌成虫の多くは飛ぶことができない。
- ⑤ 交尾後の雌成虫は茶株元の土中に産卵し、卵は2週間程度でふ化する。
- ⑥ 幼虫は茶の根を食害して育ち、2回脱皮して10月頃に3齢幼虫となり、地表面の茶の根を食害する。
- ⑦ 成虫が被覆資材に付着し拡散することがあるので、成虫が発生する時期(二番茶期)の被覆資材の取り扱いには注意する。



成虫



卵とふ化幼虫



3齢幼虫

写真: 佐藤安志氏原図

防除時期と防除方法

① 幼虫に対する防除

- ・ 10月～11月にスコップによる掘り取り調査を行い、幼虫が確認された場合には防除を実施する。
- ・ この場合は、スミチオン乳剤70を2000倍～4000倍に希釈し、1㎡当たり5リットルの割合で土壌灌注する。

② 成虫に対する防除

- ・ 秋に幼虫を確認し、部分的に一番茶が全く生育しなかった茶園や、一番茶の生育が遅れた茶園では、成虫の発生期（5月～6月頃）にフォース粒剤を10a当たり9kgの割合で雨落ち部に散布し軽く混和する。
- ・ 薬剤の散布は茶園全面ではなく、一番茶の生育の悪かった部分とその周辺部を中心に行う。

【ナガチャコガネの防除薬剤】

薬剤名	使用時期（摘採前日数）	希釈倍数	使用方法	使用回数
スミチオン乳剤70	10月～12月（90日前まで）	2000倍 ～ 4000倍	1㎡当たり 5L土壌灌注	1回
フォース粒剤	成虫飛来初期（7日前まで）	9kg	雨落ち部 土壌混和	1回

◎農業は、最新の登録情報を確認し、ラベルの記載内容を必ず守って使用して下さい。

ナガチャコガネに関する問い合わせ先

問い合わせ先	電話番号	問い合わせ先	電話番号
病害虫防除・肥料検査センター	0985-73-6670	西諸県農林振興局 西諸県農業改良普及センター	0984-23-5105
総合農業試験場茶業支場	0983-27-0355	児湯農林振興局 児湯農業改良普及センター	0983-43-2311
中部農林振興局 中部農業改良普及センター	0985-30-6121	東臼杵農林振興局 東臼杵南部農業改良普及センター	0982-68-3100
南那珂農林振興局 南那珂農業改良普及センター	0987-21-9550	東臼杵農林振興局 東臼杵北部農業改良普及センター	0982-32-3216
北諸県農林振興局 北諸県農業改良普及センター	0986-38-1554	西臼杵支庁 西臼杵農業改良普及センター	0982-72-2158

平成25年6月

宮崎県・一般社団法人宮崎県植物防疫協会